

## 退職に寄せて



### 「果樹と歩いた40年」

教授 アグリサイエンスコース  
平 智

山形大学農学部園芸学科 果樹園芸学研究室に助手として着任したのは1985（昭和60年）の4月でしたから、今年度末の定年退職まで、39年の長きにわたってお世話になつたことになります。鶴岡に赴任する前に、京都大学農学部附属農場（当時は大阪府高槻市にありました）に助手として1年半勤めています。そこで、約40年の日々を果樹とともに歩んできることになります。

大学院時代から「渋ガキ果実の脱渋メカニズム」を研究テーマにしていましたので、『庄内柿』の産地である鶴岡



### 「退職に寄せて」

教授 林田 光祐

発展を祈念して、筆を擱く事にします。皆様、長い間、有難うございました。

2学科時代の生物環境学科1期生から始まり、3学科、1学科6コース、1学科3コースと多くの改組とプログラム変更を経験してきました。とくに、3学科のときの教育内容の見直しに同僚の先生方と時間をかけて熱く議論を交わしたことが強く記憶に残っています。

着任したばかりの頃は、学生の皆さんと同程度かそれ以上の体力と熱量が私もあつたので、各学生の体力や希望に合わせて、奥山から離島までいろいろなフィールド調査に出かけました。振り返るとかなりの冒險をすることもあり、当時の学生の皆さんに助けられて大変な事故もなく無事に研究を続けてこられたと感謝しています。これらの経験を積むことで、その後のフィールドでの教育・研究を行うためのマニュアルづくりにつながり、実験実習等の授業や農学部の活動指針へと実を結びました。また、自分ができることを自分で見出し、自信をもつて卒業しているように感じています。

着任した年は林学科の最後の学年が4年生で、授業は不足となった1993年の春に着任して以来31年間を鶴岡で過ごさせていただけでした。山形の冬なんぞと思ってきた。前任地が極寒の北海道北部の名寄市でしたので、山形の冬なんぞと思ってきたのですが、メリハリのない庄内の冬は想像以上に厳しい冬でした。しかし、温暖化の影響や徐々に慣れてきたこともあり、最近は辛い冬期間が短くなっています。

記録的な冷夏で深刻な米不足となつた1993年の春に着任して以来31年間を鶴岡で過ごさせていただけでした。山形の冬なんぞと思ってきたのですが、メリハリのない庄内の冬は想像以上に厳しい冬でした。しかし、温暖化の影響や徐々に慣れてきたこともあり、最近は辛い冬期間が短くなっています。



食と天然温泉が自慢のシティホテル  
東京第一ホテル鶴岡

〒997-0031 山形県鶴岡市錦町2-10 TEL(0235)24-7611 http://www.tdh-tsuruoka.co.jp

# 自然との調和を図る優れた技術!

業務内容

道路・橋梁・各種構造物調査設計／農業土木調査設計／農業集落排水／測量調査・地質解析／上下水道調査設計／河川・砂防調査設計／港湾・漁港・海岸調査設計／都市開発計画／環境アセスメント／施工管理／構造物維持管理(橋梁定量的診断ほか)

株式会社 帝国設計事務所

認証 ISO 9001

代表取締役会長 菅原 義昭 (昭和40年 農工卒・技術士)

代表取締役社長 足立一郎 (昭和58年 農工卒)

〒065-0025 札幌市東区北25条東12丁目1番12号 帝国ビル

TEL 011-753-4768 FAX 011-753-0488 URL http://www.kk-teikoku.jp

私の山形大学農学部での教員人生は平成4（1992）年3月1日から始まりました。令和6年3月31日で定年を迎えると、32年と1か月と言う長きに渡り、お世話をなつたことになります。予想通り、いやなかつた実験や予測とは異なる結果が出た研究が少なく、喜びも苦労も共にしてくれた専攻生諸氏に心から御礼申し上げます。長い間にわたり教育研究を支えてくださった農学部の職員各位ならびに関係者各位に心から御礼申し上げます。長い間本当にありがとうございました。

通して、100人を超える学生や院生の卒論、修論、博士論文の指導を行つてきました。それ以上に成果が上がった実験は多くはなく、うまくいかなかったですが、喜びも苦労も共にしてくれた専攻生諸氏に心から感謝します。また、長きにわたり教育研究を支えてくださった農学部の職員各位ならびに関係者各位に心から御礼申し上げます。長い間本当にありがとうございました。



### 「定年退職後はどうする？」

教授 バイオサイエンスコース  
村山 哲也

していく姿を見送ることが大きな喜びでした。

副学長を担当して2年目からは研究室に学生がいなくなつて寂しい最後の3年間でした。新型コロナの影響で行動の制約も大きかつたのですが、国際交流とSDGsとの関連で新しい出会いも多く、貴重な経験をさせていただきました。そして、農学に対する社会の期待は日増しに大きくなっていることを実感しています。

最後になりましたが、鶴窓会の皆様のご多幸と農学部の益々の発展を祈念いたします。

教員人生は平成4（1992）年3月1日から始まりました。令和6年3月31日で定年を迎えると、32年と1か月と言う長きに渡り、お世話をなつたことになります。予想通り、いやなかつた実験や予測とは異なる結果が出た研究が少なく、喜びも苦労も共にしてくれた専攻生諸氏に心から御礼申し上げます。長い間本当にありがとうございました。

それでもそれをメインテーマに研究を進めてきました。以降、カキ研究一筋と言いたいところですが、研究室を専攻する学生さんたちの希望もあって、ブドウやオウトウ（さくらんぼ）、セイヨウナシ（洋ナシ）、リンゴなど、山形県を代表するいくつかの樹種についても研究することにしました。くだもの王国やまたなではの恵まれた環境がそれも研究することにしました。果樹研究者として大変ありがたいことでした。

ほどなくヤマブドウや在来たちも「くだもの王国」を支える重要な構成メンバーであることに気がつき、これらの人々や品種・系統保全についても考えるようになりました。山形在来作物研究会の活動に積極的に参画してきたのもそのような理由からでした。同研究会の20年間にわたる活動のなかで、「ダイバーシティ（多様性）」は、じつはマイノリティ（少数派）に支えられていることをさまざまなもので実感することができました。約40年間の研究と教育を